

■■■■になあけど「白ねぎ」で  
もうちょっこし「がんじょ」してみよいや

はじめに

私が暮らす■■■■集落は、戦後入植した開拓の村です。

戦後の混乱の中、未開の地を、命を削り一畝一畝開墾し、今は豊かな大地となり、来年で入植75周年を迎えます。私は開拓3世。先人たちから受け継いだ大地を次の世代へ次ぐ使命があります。

私は平成19年に■■■歳で就農しました。農業を生業として14年目になります。両親は20世紀梨を中心とした梨農家でしたが、私は就農までの25年間、■■■■で野菜と花卉の種苗生産（苗づくり）、■■■■を行っていました。この経験を活かし、私は妻と共に白ねぎとブロッコリー栽培を始めました。

栽培面積は自作地と近隣農家からの借地を利用し、規模拡大を進めてきました。しかし、白ねぎとブロッコリーは作付時期、収穫時期が重なり身体的な負担も大きいため、ブロッコリーを減らし、白ねぎ主体の作付体系へ移行し、今に至っています。

また就農2年目には認定農業者、3年目にはJA大山町白ねぎ運営委員になり、栽培講習会、新規栽培者研修会などに取り組んできました。また私的には■■■地区の若手栽培者、新規栽培者と勉強会を行い、技術の向上と仲間づくりに努めてきました。

さらに、平成31年2月からJA大山町白ねぎ生産部長、4月からJA理事、令和2年2月から農業士となっています。今後も農業者を支援し、農業が地域を守り発展するよう力を注いでいきます。

さて、いま地域農業は活気に満ちている感があります。ブロッコリー、白ねぎなど基幹野菜が安定し、「農業で暮らしていける」実感があります。それに伴い、ここ何年かで世代交代が進み、若い農業者が増えつつあります。20代から40代の元気ある農業者が高齢化で離農する農地を引き継ぎ、先人たちが大切にしてきた大地を守ってもらいたい...そのような思いから、若い生産者が1日でも早く一人前になれるよう、私がこれまで培ってきた経験や技術を惜しみなく伝えていくため、普及所や農協が開催した、若い農業者を対象とした講習会では、講師を務めました。さらに、令和元年度から大山町のアグリマイスターにもなりました。

私も■■■が近づいてきて、体力的に厳しさを感じてきてはいますが、20代から40代の元気ある農業者に負けないよう、地域農業を守る一員として、もうちょっこし「がんじょ」して、農地を引き継ぎ、ちょっこし経営規模を拡大したいと思います。また、これまで培った知恵と経験を活かし、堆肥散布、緑肥栽培や深耕など徹底した土づくりで10aあたり1,200kgの収量を確保しつつ、排水対策を徹底し、気象災害に負けない安定した農業経営を行っていきたいと思います。

現在の経営規模

○品目

品目	自作地		借地		合計
	田(a)	畑(a)	田(a)	畑(a)	
春ねぎ				20	20
夏ねぎ		20			20
秋冬ねぎ				40	40
ブロッコリー		20		30	50
梨		15			15
緑肥		20		60	80
水稻	25				25
合計	25	70		150	250

○労働力

氏名	年齢	続柄	年間労働日数	担当
長田 直大		本人	320	白ねぎ全般
		妻	300	白ねぎ全般
		父	100	梨全般、出荷調製
		母	100	梨全般、出荷調製

○主な機械・施設

機械・施設	台数	能力・規模	導入年	備考
トラクター	2			
ブロードキャスター	1			
半自動定植機	1			
草刈り機	1			
動力噴霧器	1			
管理機	1			
管理機	3			
結束機	1			
皮剥ぎ機、コンプレッサー	1			
田植え機	1			
スピードスプレイヤー	1			
乗用モア	1			
軽トラック	2			

## 目指す経営

現在、白ねぎ栽培は、私と妻の2人で、ほとんどの作業を行っています。繁忙期となる夏ねぎでは、日の出とともに収穫を始め、調製・出荷します。午前中に出荷を終え、昼食を食べてからは、休む間もなく耕耘・防除・緑肥の刈取・草刈りなどの作業を日没まで行っており、オーバーワーク気味で忙しさが先に立っています。最近では、■■■■も近づいてきて、体力的に厳しいと感じてきています。そのため、時間的・体力的に余裕を持ち、■■歳を超えてからも、ゆとりある経営を行いたいと考えています。

今後は、地域の方々を雇用し、労働力を確保しつつ、本プランで導入した機械で徹底した土づくりを行い、1本あたりの単価が高く出荷調製が早い2L(2本束)規格を9割以上生産し、生産の効率化を図っていきたいです。

## 現状の課題

### 課題1

白ねぎの品質向上と安定した収量確保のため、緑肥作物(ソルゴー、ライムギなど)との輪作栽培をしています。緑肥作物を鋤き込む前には、事前に刈り取る必要があるため、フレールモアが必須になります。

しかし、フレールモアを所有しておらず、借りているため、自身の日程に合わせた刈り取りをすることが難しく適期を逃してしまいます。そのため、緑肥作物の生育が進み、茎や葉が硬くなり、細かく粉砕するためには、適期で刈り取りを行うときに比べ、およそ1.5倍の時間(45~60分、適期刈取時は30~45分/10a)がかかってしまいます。さらに、緑肥作物に穂ができてしまうので、トラクターの清掃にも時間を費やしています。

また現在所有しているトラクター ■■■■ では、作業幅も狭く(1.6m)馬力も低いいため、鋤き込みに40分~50分/10aの作業時間がかかります

そのため、夏ねぎ(8月)の収穫・出荷と緑肥作物の刈り取り・耕耘が重なるため、夏ねぎの収穫が遅れによる品質低下を招くことにより、収量が約1,050ケース/10aまで、落ちていきます。

### 課題2

白ねぎ栽培の畑は大山山麓の傾斜地に位置しているほ場が多く、近年の大雨により土が流出します。そのため、流出した土で白ねぎの分岐点が埋まってしまい、手作業で土を掻き出す手間も発生しています。

さらに、トラクター耕耘をしていると、地下30cm付近に土の硬い層(耕盤)ができます。これにより、水が地下へ浸透せず、傾斜地の白ねぎ栽培でも、近年の降水量で根腐れが発生し減収しています。

特にH30年は盆明けの大雨により軟腐病が発生し、9月~11月収穫予定の分が、例年に比べ収量が3割減となる大打撃を受けました。

### 課題3

地域農業を守るために、農地を借り受け、経営規模を拡大したい思いがあります。しかし、現在の経営規模を維持・拡大していくには、1,2,6月を除く、9か月間で1日あたり50ケース以上の出荷が必要となります。ところが、白ねぎの調製作業を手伝っていた両親が高齢のため農業から離れます。そのため、耕耘・防除などの作業が重なる時期は、時間的にも体力的にも厳しくなります。

### 課題に対する改善策・取組

#### 改善策・取組1

##### 高性能トラクター（32ps）・フレールモアの導入

高性能トラクター（32ps）を導入することで、現在所有しているトラクター ■■■■ と比べ、耕耘スピードが10分/10a短縮されます。（別紙トラクター導入にかかる必要理由書・規模決定根拠（白ねぎ））

また、併せてフレールモアを導入することで、自身のスケジュールに合わせた作業が可能になり、緑肥作物の生育が進み茎や葉が固くなる前に適期刈り取りができるため、短時間で作業を終えることができ、また、穂がつく前に作業ができることでトラクターの清掃作業も短時間で済みます。

これらにより緑肥の鋤きこみ作業が効率化され、夏ねぎの収穫・出荷調製作業にかかる時間を確保でき、収穫遅れによる品質低下を回避できます。

#### 改善策・取組2

##### プラソイラーの導入

地下30cm付近にできた土の硬い層（耕盤）を破碎し、排水性を向上させることで、土の流出を防ぎ、手作業で土をかき出す手間から解放され、白ねぎの根腐れや軟腐病などの発生を抑制し、安定した収量を確保できます。

#### 改善策・取組3

##### 臨時雇用の活用

白ねぎの調製作業の繁忙期である7月～12月、3月～4月は、臨時雇用することで、労働力の不足を補います。

既に近隣の方で、定年などで勤めを退職された方などから働きたいとの声を頂いており、雇用予定です。

また、指導農業士、アグリマイスターとしても積極的に研修生などを受け入れていきたいと考えています。そのため、そういった方々が働きやすいよう休憩所の設置、ソーシャルディスタンスを確保した作業場環境などの整備にも努めます。

### 取組に対する地域への波及効果

今、地域農業は活気を取り戻しつつあります。私が本プランに取り組むことで、高齢化により離農する方々の農地を、耕作放棄地にしないよう出来るだけ借り受けて保全し、また、地域の定年退職された方などを雇用することで、まだ働きたい意欲のある方々の受け皿となり、地域のさらなる活性化の一役を担えると考えています。

また、これまで若手農家とともに、弓浜地区の優秀な若手農家や大山町内の優秀な農家と意見交換を行ったり、試験場などに赴いたりなど、年に3回程度の研修会を行ってきました。さらには、大山町内の生産者同士で交流会を行い、部会の結束力を高めてきました。その甲斐もあり、一緒に研修してきた若手農家などが自立していき、優秀な農家に成長したり、大型法人のねぎ部門を任されたりなど活躍しています。

今後は、本プランに取り組むことで1日でも長く農業をかんじよし、これまで行ってきた若い農業者への育成活動を続けていくことで、1人でも多くの若手農業者に、今まで培った経験と技術を伝えてきたいです。さらに、研修会や交流会を通じて、お互いに栽培技術を向上できるよう協力し、「鳥取県の白ねぎは大山町が牽引する産地づくり」を目指していきたいと考えています。

### 今後の経営目標

品目	R 2 (現状)	R 3	R 4	R 5	R 6 (目標)
春ねぎ	20a	20a	20a	25a	25a
夏ねぎ	20a	20a	25a	25a	25a
秋冬ねぎ	40a	40a	40a	40a	40a
ブロッコリー	50a	50a	50a	50a	50a
梨	15a	15a			
緑肥	80a	80a	110a	110a	110a
水稻	25a	25a	25a	25a	25a
合計	250a	250a	270a	275a	275a

### 取組に対する関係機関の役割分担

取組	R 3	R 4	R 5	関係機関
機械導入	○			本人・町・県
農地の確保	○	○	○	本人・町
労働力の確保	○	○	○	本人
労働環境の整備	○			本人
交流会・研修会	3~4回/年	3~4回/年	3~4回/年	本人

**機械導入計画**

(税込)

機械・施設	R 3	R 4	R 5	関係機関・事業
トラクター	5,791,500 円			本人・町・県
フレールモア	748,990 円			本人・町・県
プラソイラー	251,680 円			本人・町・県

**最後に**

もうすぐ■を迎えようとしています。白ねぎ栽培をもう少しがんじょしてみようと思い「がんばる農家プラン」の作成を決めました。白ねぎ栽培を生業として14年、がむしゃらに取り組み、経験と技術を研鑽してきました。

今回、本プランの作成にあたり、経営を一から見直し、農地保全、雇用創出、若手の育成という目標に向かって、第2の白ねぎ栽培にチャレンジしていきたいと思います。

また、これからはアグリマイスターとして白ねぎ栽培を目指す研修生も受け入れ、微力ながら担い手の育成にも尽力していきたいです。そして若手生産者との勉強会(年3回)、交流会(年1回)などを今後も積極的に行い、技術向上と仲間づくりに努め、白ねぎの産地づくりを進めていきたいと考えます。

最後に農業が職業選択で魅力ある職業となるように努め、地域農業が、さらに発展していくよう貢献していきます。

